

栝楼根 TRICHOSANTHES RADIX

(基原) ^{1) 2) 3) 4)}

ウリ科 (Cucurbitaceae) の①栝楼 *Trichosanthes Kirilowii* Maximowicz (中国産)、②キカラスウリ *Trichosanthes Kirilowii* Maximowicz var. *japonocum* Kitamura (国産) ③又はオオカラスウリ *Trichosanthes bracteata* Voigt (中国産)、の皮層を除いた根。

注) : カラスウリ *T. cucumeroides* Maxim. の根 (土瓜根) はこの規定に含まれない。

- ・植物名の由来²⁾ : 栝楼は果^{カラ} ^{は正か} (カラスウリ) の発音が転化したもの。
- ・別名²⁾ : 粉にすると潔白で雪のように白いことから^{天花粉}と命名。
(中国の一般的名称、『図経本草』による)
- ・薬用部位 : 同一植物で薬用部位が3カ所存在。

① ^{栝楼実} (果実) ② ^{栝楼仁} (種子) ③ ^{栝楼根} (根)

(性状) ¹⁾

不整の円柱形を呈し、長さ5～10cm、径3～5cm、しばしば従割されている。外面は淡黄白色で、不規則な維管束の走行が帯褐黄色に認められる。折面はやや繊維性で淡黄色である。

(産地) ^{1) 2) 3)}

江戸時代は四国、九州産が佳品とされたが、現在の市場品は中国安徽省、可南省、山東省などに産する。輸入量年間約15トン。

北里は東医研は^{河北省産}。

(品質) ^{2) 3) 4) 6) 6)}

- ①内部が充実し、白色で粉性に富み、苦みが少ないものを良品とする。
- ②粉状で色が白く、滑沢で中心に色紋 (放射組織による紋理) のあるものを伊毛様 (イモデ) といい、苦みのないものがよい。

注) : カラスウリ (土瓜根、王瓜根) は苦みが強い。

< 基原植物の比較 >⁵⁾

種別	括 搜 根 (瓜 呂 根)		王瓜根 (土瓜根)
原料植物名	キカラスウリ	オオカラスウリ	カラスウリ
分布	本州, 四国, 九州	四国, 九州, 琉球	本州, 四国, 九州
根 茎	肥大した円柱状	肥大した円柱状	紡錘状の塊根
草 状	多年生蔓草	多年生蔓草	多年生蔓草
毛	全株無毛	全株無毛	全株細毛がある
卷 鬚	3~4岐する	3岐する	単一である
葉	卵状心臓形, 掌状に3~5浅裂する, 葉面無毛, 滑沢	心臓形, 掌状に5~7中裂する, 無毛で滑沢	卵状心臓形で三角状に3~5浅裂, 細毛を密生, 粗渋
果 実	長卵円形, 長さ5~10cm 黄熟する	広楕円形, 長さ約7cm 朱赤色に熟する	楕円形で長さ5~7cm 赤く熟する
種 子	黒褐色, 扁楕円形, 長さ7~8mm, 幅6.5~7.5mm, 輪帯なし	汚白色, 扁楕円形, 長さ10~13mm, 表面に明らかな線条がある	赤褐色, 扁楕円形, 長さ10mm, 幅7~9mm, 隆起した輪帯がある
母植物名	キカラスウリ	オオカラスウリ	カラスウリ
薬用部	皮を去った肥大した根である	同 左	同 左
形 状	不斉の円柱状	不斉塊状または連珠状のくびれがある	不斉の塊状
大きさ	長さ5~10cm 径3~5cm	長さ5~10cm 径4~7cm	長さ4~20cm 径3~5cm
外 面	類白色, 粉状, 黄褐色の直管が露出する	同 左	淡灰褐色で, 多数の症状隆起がある
破折面	やや繊維性, 黄色の直管により斑点または小孔がある	同 左	白色粉状で, やや繊維性である
臭 味	においなく味は苦くない	においなく味は苦くない	においなく味は苦い
剖 見	文献参照	文献参照	文献参照
文 献	嶋野武・吉田裕「薬学雑誌」58巻240頁, 1937年	吉田裕「薬学雑誌」61巻100頁, 1941年	同 左

(成分) 1) 4) 7)

多量のデンプン(40%)、アミノ酸、有機酸trichosanic acid、citrulline(5.7%) arginine、glutamic acidなど

(現代薬理) 1) 3) 7)

○抗消化性潰瘍作用

水製エキスはマウス経口投与で拘束水浸ストレス胃潰瘍を抑制する。

○アルコール代謝促進作用

ラットにエタノールを投与した系で、水製エキスは経口投与で血中からエタノール濃度、アルデヒド濃度の上昇を抑制し、肝のADH、ALDH活性を促進した。

○インターフェロン誘起作用

熱水抽出エキスはインターフェロン誘起作用を示した。

○血糖降下作用

グリカンのtrichosanA, B, C, D, Eは血糖降下作用を示した。

(古典的薬能・薬効) 1) 2) 3) 4) 8)

神農本草経：中品に括藎として収載。味苦寒

「主消渴 身熱 煩滿 大熱 補虚安中 續絶傷」

和漢薬図鑑：解熱 止渴 消腫薬として、虚証の口渴、咽喉腫痛 解熱 祛痰 恶性腫瘍などに応用。また催乳の効能があり、粉末は小児皮膚病に外用として用いる。

新古方薬能：本品は急を和する趣むきやや葛根に比すべし。渴を治するも石膏と同じからず。小便を利するも茯苓と異なる。葛根は味寒気平、石膏は味辛微寒、茯苓は味甘平なり。

中約大辞典：①帰経「入肺経 胃経」

②薬能「生津 止渴 降火 潤燥 排膿 消腫。治熱病口渴 消渴 黄疸 肺燥咳血 癰腫 痔瘻」

③禁忌「脾胃虚寒 大便滑泄者 忌服」

④渴の種類

『薬征続編』に「凡渴有二証 煩渴者石膏主之 但渴者括楼根主之」

(該当処方)³⁾

表1 栝楼(仁、実、根)を配合した漢方処方

処 方 名 (出 典)	栝 楼 仁 (実)の量	全量	薬味数	処 方 名 (出 典)	栝 楼 根 の量	全量	薬味数		
小陷胸湯 (傷寒論)	仁(実)	3.0g	10.5g	3	柴胡去半夏加栝楼湯 (傷寒論)	根	5.0g	26.0g	7
千金陷胸湯 (千金方)	実	3.0	10.5	4	參茸煉 (浅田家方)	天花粉	4.0	5.0	2
栝楼薤白半夏湯 (金匱要略)	実	3.0	13.0	3	益元湯 (道三)	根	4.0	20.0	5
加味小陷胸湯 (証治大還)	仁	3.0	14.5	5	栝楼桂枝乾姜湯 (傷寒論)	根	3.0	22.0	7
栝楼湯 (千金方)	実	3.0	18.0	5	玉露散 (牛山活套)	根	3.0	24.0	8
延経期方 (方輿輿)	仁	3.0	18.0	6	生津湯	根	3.0	24.5	9
柴胡枳桔湯 (傷寒鑑要)	実(仁)	3.0	24.5	8	緩急湯 (高階家方)	根	3.0	26.0	9
柴胡枳桔加湯葶藶 (傷寒鑑要)	実	3.0	26.5	9	柴胡養榮湯 (温疫論)	根	2.5	26.0	11
柴陷湯 (本朝経験方)	仁(実)	3.0	27.0	9	栝楼罷麦丸 (金匱要略)	根	2.0	10.0	5
栝楼薤白白酒湯 (金匱要略)	实仁	2.0	8.0	2	清燥養榮湯 (温疫論)	根	2.0	16.5	8
小品奔豚湯 (腹證奇覽)	仁	2.0	23.0	8	栝楼桂枝湯 (金匱要略)	根	2.0	20.0	6
栝楼枳実湯 (万病回春)	仁	2.0	24.0	14	肺癰湯 (原南陽)	根	2.0	20.0	7
当帰養血湯 (万病回春)	実	1.5	26.0	14	托裏消毒飲 (万病回春)	根	2.0	21.0	12
枳実薤白桂枝湯 (金匱要略)	実	1.0	12.0	5	柴胡清肝散 (宣明論)	根	2.0	30.0	10
柴便半夏湯 (医学入門)	仁	3.0	29.0	11	散腫潰堅湯 (一貫堂方)	根	1.5	23.0	15
					散腫潰堅湯 (万病回春)	根(天花粉)	1.2	22.8	19
					栝楼牡蠣散 散剂 (金匱要略)	根	2.25	4.5	2
					鉛丹散 散剂 (外台秘要)	根	0.7	3.0	8
					牡蠣沢瀉散 散剂 (傷寒論)	根	0.43	3.0	7
					乳泉散 (兼康方)	天花粉			1
					活血散瘀湯 (外科正宗)	天花粉	3.0	32.0	12

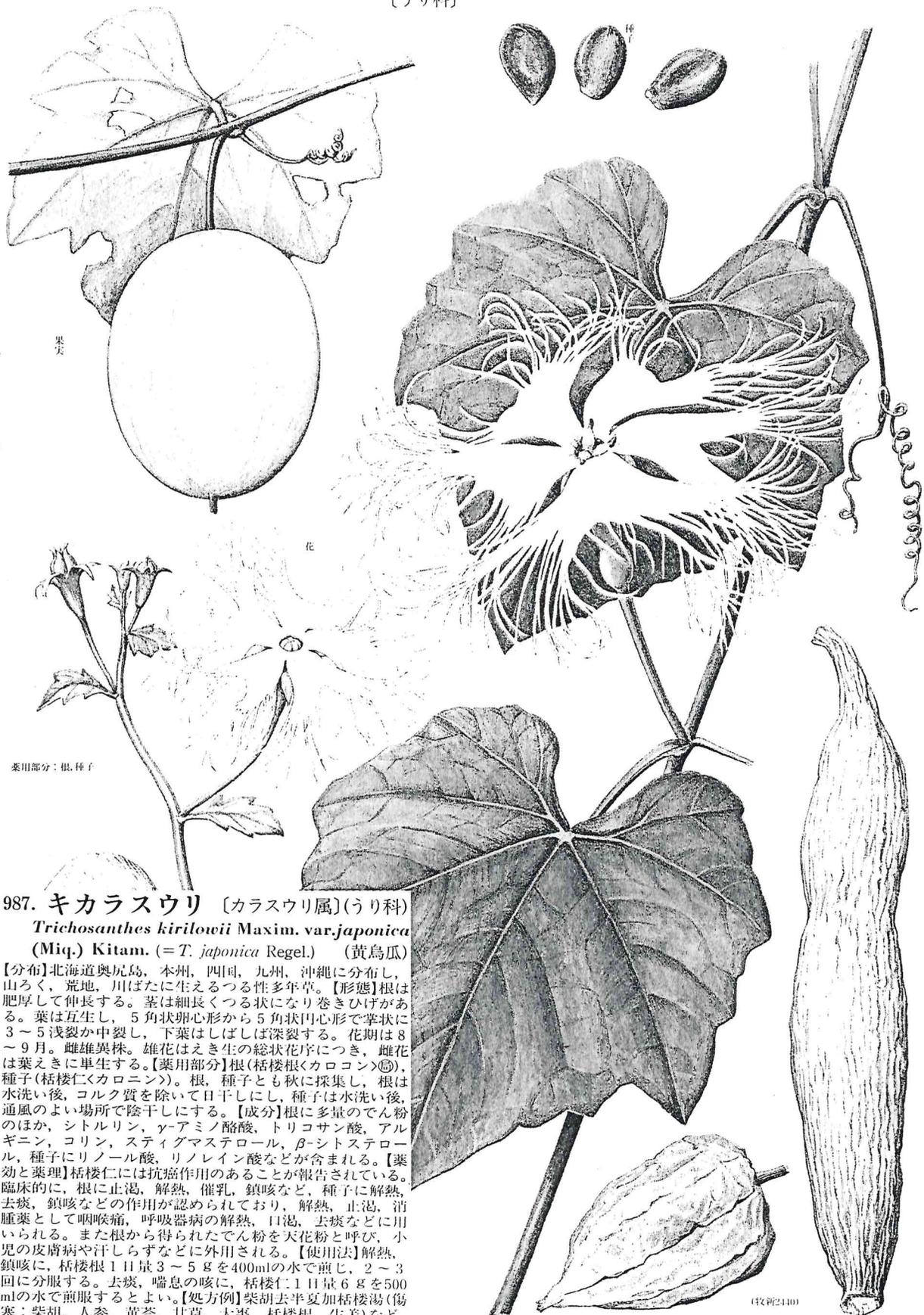
処方名および分量(1日量)は主として経験・漢方処分量集によった。

栝楼仁、栝楼実の使い分けについては出典と照合していないが、成書によってはその指定が異なるものがある。

(参考文献)

- 1) 日本薬局方 第13改正 pp.343~345
- 2) 和漢薬百科図鑑 上巻 難波恒雄著 pp.32~34
- 3) 現代東洋医学 Vol.6 No.2 pp.44~62 (1985.4.)
- 4) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂 pp.103
- 5) 和漢薬の選品と薬効 木村雄四郎 pp.81~82
- 6) 新古方薬囊 荒木性次 pp.287~288
- 7) 生薬ハンドブック ツムラ pp.31
- 8) 中薬大辞典 上巻 pp.325~327

(1977.9.22. 文責: 金 成俊)



987. キカラスウリ [カラスウリ属](うり科)

Trichosanthes kirilowii Maxim. var. *japonica* (Miq.) Kitam. (= *T. japonica* Regel.) (黄烏瓜)

【分布】北海道興尻島，本州，四国，九州，沖縄に分布し，山ろく，荒地，川ばたに生えるつる性多年草。【形態】根は肥厚して伸長する。莖は細長くつる状になり巻きひげがある。葉は互生し，5角状卵心形から5角状円心形で掌状に3~5浅裂か中裂し，下葉はしばしば深裂する。花期は8~9月。雌雄異株。雄花はえき生の総状花序につき，雌花は葉えきに単生する。【薬用部分】根(栝楼根<カロン>)，種子(栝楼仁<カロン>)。根，種子とも秋に採集し，根は水洗い後，コルク質を除いて日干しにし，種子は水洗い後，通風のよい場所で陰干しにする。【成分】根に多量のでん粉のほか，シトルリン，γ-アミノ酪酸，トリコサン酸，アルギニン，コリン，スティグマステロール，β-シトステロール，種子にリノール酸，リノレイン酸などが含まれる。【薬効と薬理】栝楼仁には抗癌作用のあることが報告されている。臨床的に，根に止渴，解熱，催乳，鎮咳など，種子に解熱，去痰，鎮咳などの作用が認められており，解熱，止渴，消腫薬として咽喉痛，呼吸器病の解熱，口渴，去痰などに用いられる。また根から得られたでん粉を天花粉と呼び，小児の皮膚病や汗しらすなどに外用される。【用法】解熱，鎮咳に，栝楼根1日量3~5gを400mlの水で煎じ，2~3回に分服する。去痰，喘息の咳に，栝楼仁1日量6gを500mlの水で煎服するとよい。【処方例】柴胡去半夏加栝楼湯(傷寒：柴胡，人參，黄芩，甘草，大棗，栝楼根，生姜)など。

(牧野2440)